

# JSHCT Letter No.8

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

日本造血細胞移植学会

September 2001

発刊発行：日本造血細胞移植学会 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 名古屋大学医学部第一内科内 TEL (052) 744-2146 FAX (052) 744-2161  
発行者：齋藤 英彦 編集責任：日本造血細胞移植学会ニューズレター編集委員会 印刷：株式会社セントラルコンベンションサービス 年2回発行：2001年9月

## 第24回 日本造血細胞移植学会総会の開催お知らせ

会長：今村雅寛(北海道大学大学院医学研究科癌制御医学)

第24回日本造血細胞移植学会総会は12月20日(木)、21日(金)の2日間、札幌市で開催されます。造血細胞移植が年々深みと幅の広さを増しつつあるこの重要な時期に、これまでの造血細胞移植に関する臨床および基礎的成果をもとに、さらに多方面の「英知を結集」することで、21世紀の最初を飾るにふさわしい実りのある学会にしたいと考えています。皆様が一同に会して、各々の研究成果を発表し、熱い討論をする中から、雪の結晶ならぬ「英知の結晶」が具現化し、造血細胞移植が細胞療法および再生医療へと発展し得る成果が挙がるように、そしてひとりでも多くの患者さんが造血細胞移植で治癒を望めるようになることを念じつつ、参加者全員のご協力の下「英知の結集」を目指す学会にしたいと考えております。

造血幹細胞源や移植前処置法の多様化、適応疾患や年齢枠の拡大、免疫療法としての側面の充実、造血幹細胞と他の間葉系幹細胞との関連、再生医学・医療への発展性など造血細胞移植における明るい兆しも多く見受けられるようになった一方で、移植片対宿主病や感染症などを含む移植後合併症対策、細胞療法への発展を遂げるための細胞障害性T細胞療法や樹状細胞療法の確立、その標的抗原の同定、移植片対白血病(腫瘍)効果の移植片対宿主病からの分離、免疫寛容の誘導など解決すべき課題も多々残されています。このような課題について討論をすべく多くの方々のご意見を参考にして企画を練って参りました。その内容はシンポジウム4題で、「Immunobiology of Cell Therapy」、「同種造血幹細胞移植と免疫寛容」、「急性リンパ性白血病に対する造血細胞移植の適応と成績 - 小児と成人における比較 -」、「移植患者看護の簡略化」を予定しております。ワークショップも4題で、「慢性GVHDによる肺合併症」、「ドナーアフェレーシスの現状と問題点」、「臍帯血移植における課題」、「移植患者のQOL」を予定しております。外国からの招待講演は、mesenchymal stem cell, bone marrow stromal cell、移植後のlate complication、モノクローナル抗体を用いたin vivo purging、移植後患者の運動療法・作業療法などの内容からなっております。特別講演としましては「再生医療の現状と将来」および「造血幹細胞の体外増幅とその臨床応用の可能性」が予定されております。このほかにも、興味深く時宜にかなった招待講演、教育講演、ランチンおよびビブニングセミナーを盛り込みましたので、多数の皆様がご参加下さいますようお願い申し上げます。

なお、冬の北海道では、天候の具合で、交通機関に乱れが生ずることもございますので、ご多忙の折で恐縮ですが、少しく時間の余裕を持たれて日程調整をされますようお願い致します。皆様のお仕事のますますのご発展をお祈りしますとともに、冬の札幌でお会いできることを楽しみに致しております。

## 留学教室紹介

今回より紙面を新たにして、会員の皆様の留学された研究室や教室の紹介をしていただく事になりました。第1回は東大医科研の高橋聡先生にお願いいたしました。次回以降毎回企画しますので楽しみにして下さい。

## Center for Cell and Gene Therapy (Baylor College of Medicine)

東大医科研 先端医療センター 高橋 聡

本センターは、1998年にSt.Jude Children's Hospitalから移籍したMalcolm Brenner博士(上写真)のグループによりテキサス州ヒューストンのメディカルセンター内に開設された。施設の概要としては、大きく3つに分かれており、(1)延べ22,000平方フィートに及ぶ前臨床研究施設、(2)12,000平方フィートのGMP(Good Manufacturing Practice)施設、および(3)Baylorの基幹病院であるMethodist Hospital内に1999年10月にオープンした成人用(30,000平方フィート)と、本年5月に改築されたTexas Children's Hospital内の小児用(16,200平方フィート)とにそれぞれ分かれたStem Cell Transplant Unit、から構成されている。これらはセンター全体のdirectorであるBrenner博士の下、新規ベクターの研究開発から臨床グレードの産生・供給、さらには臨床プロトコルやIND(Investigational New Drug)提出書類の作成・管理に至るまで、個々の細胞療法・遺伝子治療の研究および臨床応用を効率良く統括し、Baylor全体の臨床研究の供給源となることを目的としている。

前臨床研究部門は、Baylor本館に1999年に併設されたAlkek Towerの10・11Fを中心に位置し、約20名の主任研究者と150名に上る研究員が、transgene regulation、vector targeting、およびstem cell biologyといった主題を中心とした基礎研究を行なっている。この中にはベクター開発・産生を専門としたコア施設もあり、センターの枠を越えたベクター供給源となっている。

センターは、対象疾患毎に基礎研究者と臨床担当者によるいわゆる横断的なグループによっても構成されており、固形癌や白血病・悪性リンパ腫の悪性疾患のみならず、神経変性疾患、循環器系疾患、眼疾患、自己免疫性疾患などのグループに分かれている。EBV関連の世界的な仕事を次々に出しているRooney博士(中写真)は、臨床免疫学者として自らのグループを指導している他、Brenner夫人、4人の子供のお母さんなど、いくつもの顔を持ち、精力的な毎日を送っている。

基礎研究でその目的と安全性が確認された新しい治療法は、臨床研究として上記Transplant Unit等を用いて、さらなる安全性と有効性が検討される。その際、Grilley夫人(下写真)の下で臨床プロトコル研究・統制部門がIRBおよびFDA提出書類の作成・手続きなどを担当し、未経験の研究員が臨床プロトコル作成するような場合でもサポートしてくれる。現時点まで既に30以上の臨床プロトコルがFDAの認可を



Brenner教授と



Rooney博士と



Grilley夫人と

受けており、そのリストは下記で閲覧できる。

(<http://public.bcm.tmc.edu/genetherapy/Pages/Protocols.htm>)

また、隣接するMDアンダーソン癌研究所分子血液学部門のAndreeff教授や悪性リンパ腫・骨髄腫部門のYounes博士らのグループとの共同臨床研究も進みつつある。

私は1998年9月から本年8月までの3年間を、Brenner博士の研究室でB細胞性悪性疾患に対する腫瘍ワクチンの前臨床および臨床研究と、基礎研究棟ではMichael Barry博士の指導の下で腫瘍ターゲティングを目的とした白血病特異的ペプチドの同定に関する仕事を進めてきた。センターには欧州を中心とした世界各地から研究員・ポストドクらが集まり、私的なレベルも含めてとてもフレンドリーな雰囲気の中で楽しく仕事を進めることが出来た。

## ホームページのご案内

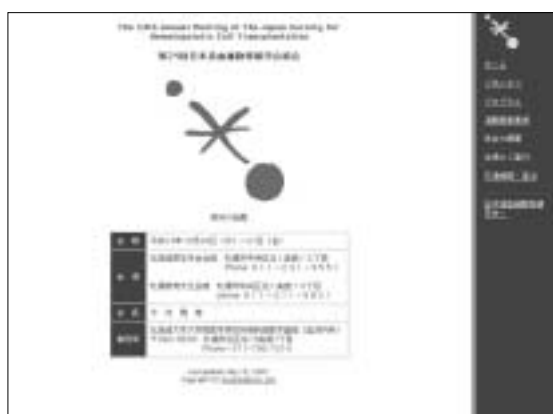
日本造血細胞移植学会のHPも7月10日に更新されています。

学会のことや様々な情報はホームページでどうぞ。



日本造血細胞移植学会

URL <http://www.jshct.com/>



日本造血細胞移植学会総会

URL <http://kwarin.org/congress/24jshct/>

## 平成14年度 評議員応募申請について

平成14年度の本学会評議員の応募申請要項をお知らせいたします。なお、選任委員会の協議を経て、本年度総会の理事会・評議員会で承認され総会で決定されますと、平成14年4月1日より本学会の評議員となります。

### 平成14年度 日本造血細胞移植学会 評議員応募申請要項

下記の事項を順にA4用紙に記載し、平成13年10月20日(土)までに日本造血細胞移植学会評議員選任委員会宛て書留にて郵送してください。なお、原本の他に、原本のコピー6部を必ず同封してください。

#### 記

このたび平成14年度日本造血細胞移植学会評議員に応募します。

- 1 氏名(ふりがな)印
- 2 生年月日(平成14年4月1日現在の年齢)
- 3 所属施設/所属部署/職名/住所/電話番号・FAX番号
- 4 連絡先(3と異なる場合に記載)
- 5 学会(骨髄移植研究会を含む)入会年(5年以上正会員で会費完納が条件です。入会年、会費納入状況等のご不明の場合には事務局までお申し出下さい。連絡先:(052)971-5550)
- 6 学歴/職歴(造血細胞移植との関連が判るように用紙1枚以内で)
- 7 資格(医師 看護婦(士)等)
- 8 所属学/会団体(役職)
- 9 専門分野(関連の深い分野から3分野以内を具体的に記載。医師の場合は内科/小児科/基礎系が判るよう  
に:30字以内)
- 10 医療業績(できる限り箇条書きにして400字以内で記載。造血細胞移植経験数も含めてください)
- 11 研究業績(造血細胞移植に関連のある事項を400字以内で記載してください)
- 12 学会発表  
【過去10年間の筆頭演者としての発表を最近のものから順に演者(3名までに省略可)、演題名、学会名、発表年、地名、発表形式(シンポジウム、口演、ポスターなど)を記載して下さい。】
- 13 論文  
【原著/総説/その他に分けて最近のものから順に著者名(全員)、題名、発表誌、号、最初と最後の頁、年を記載して下さい】
- 14 その他  
(学会評議員に募集するにあたり特に主張されたいことがあれば200字以内で記載して下さい)

送付先/〒606 - 8507

京都市左京区聖護院河原町54

京都大学医学部小児科学教室 中畑龍俊

(日本造血細胞移植学会評議員選任委員会と付記する)